



第10期(2009年5月期) 決算説明会

2009/07/28

modulat

モジュレ株式会社 (ヘラクレス : 3043)

<http://www.modulat.com/>

目次

- ◇ 2009年05月期の総括
- ◇ 2010年05月期の計画トピック

- ◇ 財務諸表: 損益計算書
- ◇ 財務諸表: 貸借対照表
- ◇ 財務諸表: キャッシュフロー計算書

- ◇ 売上高の推移
- ◇ 売上総損益の推移
- ◇ 営業損益の推移
- ◇ 当期純損益の推移
- ◇ その他指標の推移

- ◇ “つよい企業”への課題

- ◇ お問い合わせ

2009年05月期の総括

業績悪化の結果、上場後初の営業赤字、最終赤字

世界的景気悪化に伴う新規IT投資の抑制や繰延と、業務効率化の一部遅れにより、1Q～3Qで営業赤字。(4Q黒字化するが前三四半期の挽回には至らず。) 併せて、経営統合関連損失、資本戦略の見直し費用などで最終赤字。…申し訳ございません。

主力のITサービスは堅調、特に継続サービスは増加

商品販売は対前年55%減の惨状だが、ITサービスはこの景況の中でも9%減のみ。特に継続サービスは本業集中の効果により16%増と好調。継続サービスは売上全体の56%を占める。又、経営統集中止等による顧客流出は皆無。

コスト適正化の完了、シンプルな資本と業務の構造の獲得

遅れていた管理系業務効率化を中心に本事業年度で約1.5億円のコスト削減効果を獲得。併せて、事業構造改革、資産や資本提携の整理などの施策によりシンプルな資本構造・業務構造を獲得、ビジネススピードを上げる基礎を整備。

2010年05月期の計画トピック

主力の継続ITサービスを堅実に維持拡大

既決方針の継続ITサービスへの集中を加速。契約の大型長期化に堅実に取り組み、中長期の安定基盤とする。(計画微増ながら大規模案件にも取組中)。営業所、新サービスセンターは今秋に稼働予定。中小企業向けサービスは自社で立ち上げ予定。

シンプルな資本業務構造を生かす「コスト適正化計画2nd」

シンプルな資本構造と業務構造を生かして、事業構造が更にシンプルに向かい、全顧客がITに強い状況も強みとして、徹底した業務効率化・システム化を予定。(向こう2事業年度)。社員育成強化と価値観の多様化対応も本格的に開始。

営業黒字化、最終黒字化を迅速かつ堅実に達成

09年3月度からの黒字復活を堅実に継続し、V字回復を達成、復配を目指す。また、11年5月期に向けて堅実な営業基盤(10年5月期は売上の70%以上が受注済み又はそれに準ずる)を更に押し上げる。

財務諸表：損益計算書

(百万円)

	08/5期			09/5期			10/5期	
	実績	対前年比		実績	対前年比		予測	対前年比
売上高	2,017	86.6%		1,381	68.5%		1,251	90.6%
ITサービス	1,003	141.3%		917	91.4%		847	92.4%
商品	1,013	62.5%		463	45.7%		404	87.3%
売上総利益	430	93.9%		247	57.4%		241	97.6%
ITサービス	278	114.4%		199	71.6%		187	94.0%
商品	151	70.6%		48	31.8%		54	112.5%
販管費	320	100.3%		273	85.3%		208	76.2%
営業損益	109	79.0%		-26	--		33	--
経常損益	102	71.3%		-145	--		29	--
当期純損益	61	75.3%		-366	--		22	--

- ◆ ITサービス構成比の改善 : 商品売上の激減 → 本業であるITサービスへの集中。
- ◆ コスト適正化計画の効果 : 製造原価を含む総コストで約1.5億円/年を削減済。
- ◆ 堅実な収益基盤への変化 : 最終黒字化。経常利益率5%以上への回復を目指す。

財務諸表：貸借対照表

	09/5期		08/5期	
	金額	構成比	金額	構成比
流動資産	771	55.2	947	54.2
現預金	247	17.7	435	24.9
売掛金	78	5.6	465	26.6
たな卸資産*	298	21.3	17	1.0
その他	148	10.6	28	1.7
固定資産	626	44.8	801	45.8
有形固定資産	493	35.3	664	37.9
(減価償却累計額)	-223		-149	
無形固定資産	80	5.7	8	0.5
投資その他の資産	53	3.8	129	7.4
総資産	1,398	100.0	1,749	100.0

*たな卸資産には、リース投資資産を含む

(百万円)

	09/5期		08/5期	
	金額	構成比	金額	構成比
流動負債	642	46.0	702	40.1
買掛金	48	3.5	122	7.0
短期借入金*	166	11.9	220	12.6
その他	427	30.6	358	20.5
固定負債	501	35.9	409	23.4
負債合計	1,144	81.9	1,111	63.5
純資産	253	18.1	637	36.5
資本金・資本剰余金	408	29.2	408	23.4
利益剰余金 他	-155	-11.1	229	13.1
* *				
負債純資産 合計	1,398	100.0	1,749	100.0

*短期借入金には、一年以内返済予定長期借入金含む

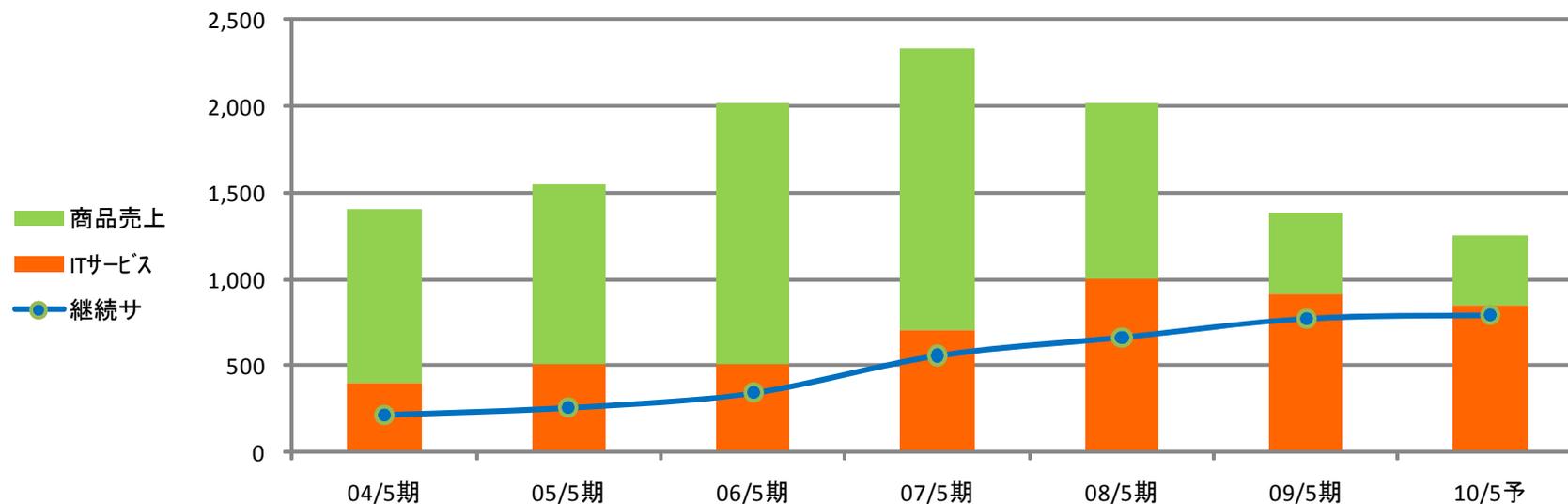
- ◆ 売掛金の減少により、流動資産が減少。
- ◆ 投資有価証券売却により、投資その他の資産が減少。
- ◆ 長期借入金と前受金の増加により、負債合計が増加。

キャッシュフロー計算書

区 分	(百万円)	
	09/5期	08/5期
営業キャッシュ・フロー	71	-37
投資キャッシュ・フロー	-267	-349
財務キャッシュ・フロー	6	367
現金及び現金同等物の期末残高	247	435

- ◆ 営業キャッシュ・フロー : 売上債権の減少等により獲得
- ◆ 投資キャッシュ・フロー : 投資有価証券の取得と貸付による支出により使用
- ◆ 財務キャッシュ・フロー : 長期借入金による収支等により獲得

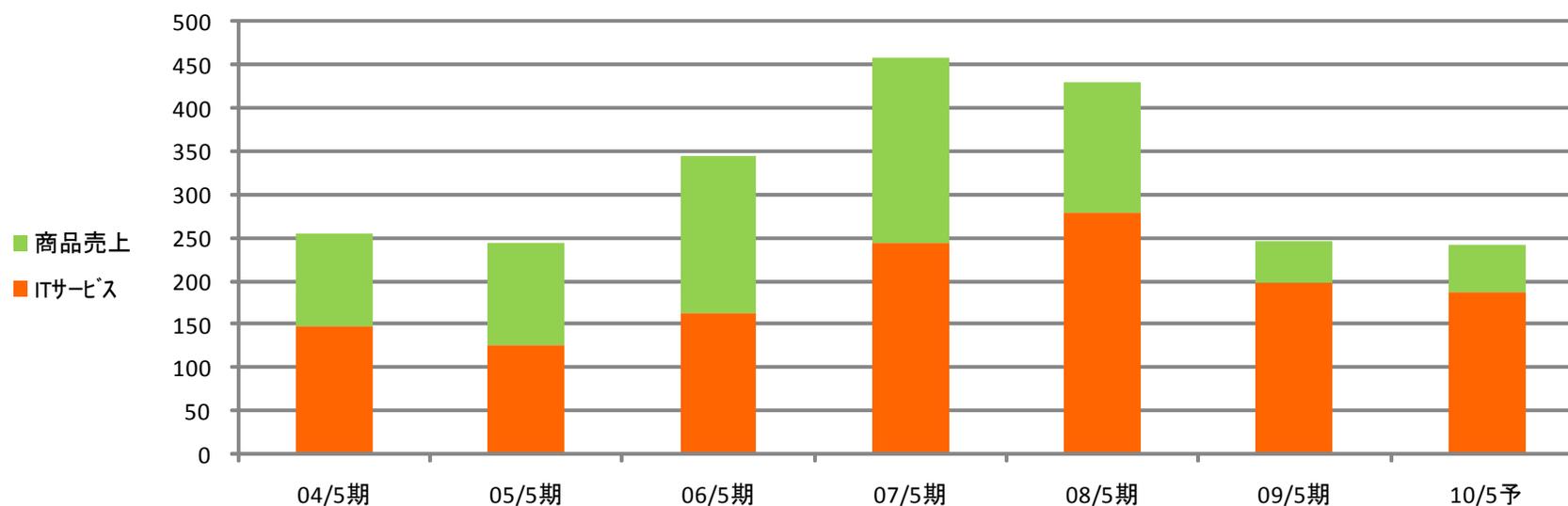
売上高の推移



	04/5期	05/5期	06/5期	07/5期	08/5期	09/5期	10/5予
合計	1,404	1,550	2,021	2,330	2,017	1,381	1,251
ITサービス	404	509	506	710	1,003	917	847
商品売上	1,000	1,040	1,515	1,620	1,013	463	404
継続サ	217	258	343	558	663	771	790

- ◆ 09/5期 : 商品売上は減少だが、本業のITサービスは堅調を維持。
- ◆ 10/5期 : 引続き厳しい事業環境を予測し、堅実な攻勢と必要な対策を講じる。

売上総損益の推移

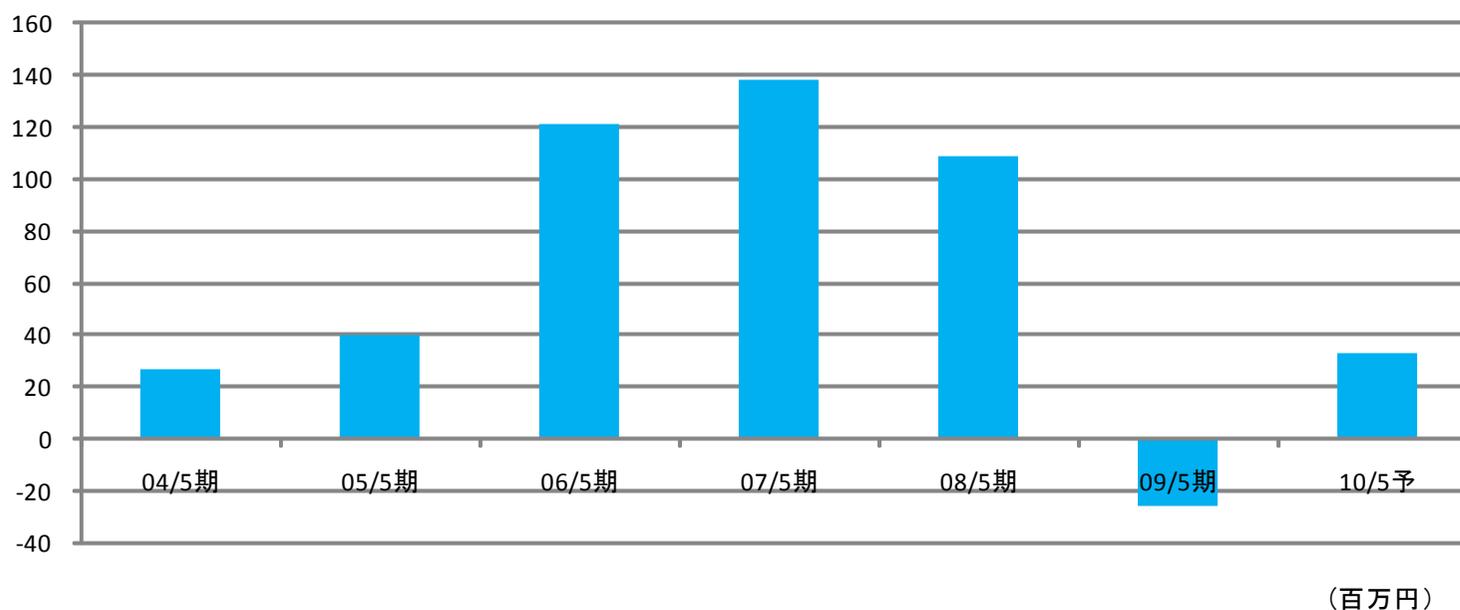


(百万円)

合計	255	244	346	458	430	247	241
	04/5期	05/5期	06/5期	07/5期	08/5期	09/5期	10/5予
ITサービス	148	125	163	243	278	199	187
商品売上	106	119	182	214	151	48	54

- ◆ 09/5期 : 総利益率は、若干低下傾向。
- ◆ 10/5期 : 必要な施策を堅実かつ迅速に実施し、総利益率改善の基礎を固める。

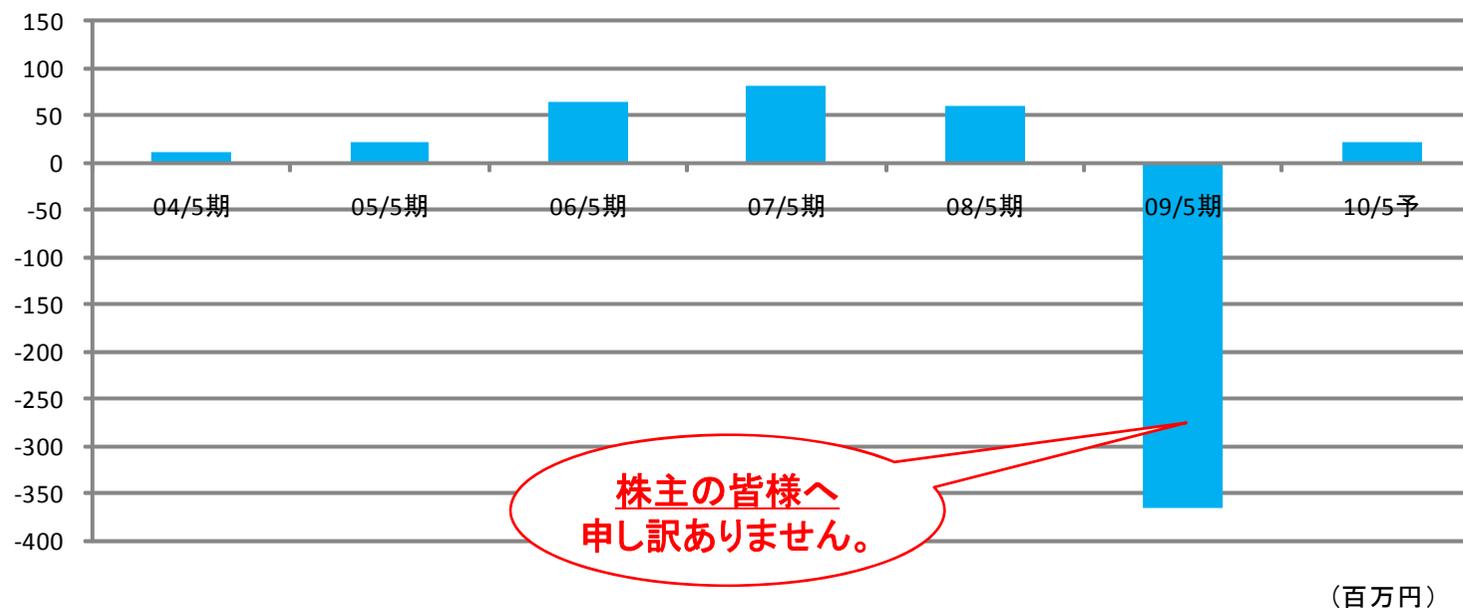
営業損益の推移



	04/5期	05/5期	06/5期	07/5期	08/5期	09/5期	10/5予
合計	27	40	121	138	109	-26	33

- ◆ 09/5期 : 期中でコスト改善完了だが、売上低下に追い付かず、販管比率増。
- ◆ 10/5期 : 堅実な本業+フル事業年度でのコスト改善効果=営業利益確保。

当期純損益の推移



	04/5期	05/5期	06/5期	07/5期	08/5期	09/5期	10/5予
合計	12	21	64	81	61	-366	22

- ◆ 09/5期 : 特別損失は当期限り。(将来への布石効果も)
- ◆ 10/5期 : 純利益確保→黒字化→復配、を目指す。(将来は過去最高の利益率を)

その他指標の推移

	01/5期	02/5期	03/5期	04/5期	05/5期	06/5期	07/5期	08/5期	09/5期	10/5予
顧客数(社)	13	16	23	28	28	35	51	69	69	60
対前年			43.8%	21.7%	0.0%	25.0%	45.7%	35.3%	0.0%	-13.0%
年間継続 契約額(百万円)	--	--	--	217	258	343	558	663	771	790
対前年			--	--	18.9%	32.9%	62.7%	18.8%	16.3%	2.5%
社員数(人)	10	17	24	30	32	36	52	50	41	43
対前年			41.2%	25.0%	6.7%	12.5%	44.4%	-3.8%	-18.0%	4.9%
経常利益率	-1.3%	2.9%	3.5%	2.0%	2.6%	5.5%	6.2%	5.1%	-10.5%	2.4%
EPS(円)	-1,924	1,131.69	4,893.05	1,574.06	2,720.13	6,853.98	5,970.68	4,495.18	-26,742.17	1,663.50
配当性向	0.0%	0.0%	4.2%	20.0%	20.0%	16.4%	24.8%	25.0%	—	25%up

- ◆ 顧客数はITサービスへの集中の強化により一時減少傾向。
- ◆ 年間継続契約金額は好調。(10/5期は回復期の為、保守的予測。)
- ◆ 経常利益率は早期の回復を目指す。
- ◆ 配当性向は基本方針(重要かつ上昇傾向)を堅持。

“つ良い企業”への課題

非メーカー系の企業向けITアウトソーサーの価値創造とその先へ

ITサービスを顧客企業に評価してもらい続けるには「非メーカー系ならではの新サービスの継続」が必須。今後は評価～退化が重要と予測。中小企業向けは既決方針＋新アイデアで具現化。その先はビジネスデスクトップと富裕層向けITサービスを志向する。

コンシェルジェ育成土壌と利用技術研究への挑戦

単能工的技術者をサービス標準化で多能工へ、そして個別企業ニーズに対応可能なエージェントへ育成する土壌と大規模農園が必要。また、利用技術を趣味的ワークやユーザー企業の苦勞から切り離してひとつの産業とする為の研究が重要。

サービス資産の有効活用、ITの極限利用で、堅実配当を

増加するITサービス用資産を効果的に収益にする長期利用ノウハウで財務基盤を安定させ、また関係者の大半がITスキル保有者の特殊性を利用した業務効率化や働きやすい環境創りで、堅実な収益のみをベースとした高配当性向企業を目指す。

お問い合わせ

【IR窓口】

ストラテジック オペレーション サービス

E-mail : ir@modulat.com

Tel : 03-3556-2461

Fax : 03-3556-2462

<http://www.modulat.com/>



<本資料お取扱い上のご注意>

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。